

知床キムンカムイプロジェクト： 普及啓発活動報告

葛西真輔
(財団法人 知床財団)

1. はじめに

近年、全国各地でクマの出没による問題が頻発し、人とクマの軋轢が顕在化している。2006年には全国各地でクマが人里へ出没するケースが相次ぎ、その結果、5千頭を超えるクマが捕獲された。北海道でも、ヒグマによる死傷事故や農作物被害が毎年のように発生し、大きな社会問題となっている。大きいものでは400kgを超え、日本における陸上最大の野生動物であるヒグマとうまく付き合うにはどうしたらよいか、現代社会の中で私たちは問われている。

クマによる人身事故や農作物被害を減らし、人とクマがうまく付き合っていくためには、ヒグマと接する可能性のある人に対し、クマについてよく知り、理解してもらうことが欠かせない。また、広く社会全体で問題意識を共有していく視点も欠かせない。

知床財団では、これまで斜里町や羅臼町を中心にヒグマに関する普及啓発を行ってきた。ウトロ小・中学校では、ヒグマとの事故防止を目的としたクマ授業をおよそ10年間に亘り継続している。また、知床財団が運営する知床自然センターや羅臼ビジターセンターでは、レクチャー等を通じ、一般観光客への普及啓発にも取り組んでいる。しかし、北海道全体で見れば、こうした取り組みは十分とは言えず、ヒグマ普及啓発に関する教材やプログラムは普及していると言えないのが現状である。

そこで、本プロジェクトの普及活動では、調査から得られた科学的なデータを基にヒグマの生態やヒグマ問題の現状を伝え、彼らとの共存を広く社会に提案することを目的に、貸出教材の作成、教育用絵本の作成、ヒグマやヒグマの暮らす自然について学ぶプログラムの開催を平成18年度からの3カ年で行った。

2. 活動項目および実施期間

普及啓発活動では次の3つの活動を行った。

- 1) ヒグマについて学ぶ貸出教材（ヒグマランクキット）の作成・貸出システムの整備
- 2) ヒグマへの理解を深めるための絵本原画の作成
- 3) 知床ヒグマの森交流プログラムの開催

ヒグマランクキットは、学校での授業やグループでの学習を想定して作成した。絵本原画は、家庭で子供が自分で学んだり、母親の読み聞かせを通じて学ぶことを想定して作成した。知床ヒグマの森交流プログラムは、子供たち自らが実際に知床を訪れ、宿泊しながらヒグマやヒグマの暮らす自然について学び、その価値を実感してもらうプログラムである。これらの活動を通じ、学ぶ人の段階にあわせた幅広い普及啓発を行った。

活動項目別の実施スケジュールは以下のとおりである。

表 1. 実施スケジュール

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
1) トランクキット			
2) 絵本原画の作成	<p>※印刷・製本は知床財団独自予算による</p>		
3) 交流プログラム			



写真2. ヒグマトランクキットを用いたレクチャーの様子

b) 指導者向けマニュアルと収録プログラム

指導者向けマニュアルには、「絵本とクイズで学ぼう！ヒグマの暮らし①、②」、「君はヒグマ新聞の記者だ！」、「名探偵とワトソン博士」、「毛皮と頭骨が語るもの」の5つのプログラムを収録した。くわえて、指導者向けにヒグマに関する情報をわかりやすくまとめたページを設け、ヒグマについて詳しくない指導者でも簡単に教材を活用し、授業を行えるよう工夫した。

収録した各プログラムの概要は以下のとおりである。

- 1) 絵本とクイズで学ぼう！ヒグマの暮らし①
- 2) 絵本とクイズで学ぼう！ヒグマの暮らし②

絵本「しれとこのきょうだいヒグマ スプとカナのおはなし」に沿って進める、クイズ形式でヒグマの生態を学ぶプログラム。マニュアルには、クイズシートが付属。

- 3) 君はヒグマ新聞の記者だ！

絵本しれとこのきょうだいヒグマ スプとカナのおはなし」に沿って作成する「知床ヒグマ新聞」を通じ、子供たち自身が人間とヒグマの共存について考え、発表しあうプログラム。マニュアルには、ヒグマ新聞が付属。

- 4) ヒグマ名探偵とワトソン博士

ヒグマ名探偵となった子供たちが、ワトソン博士（先生）のアドバイスのもとヒグマの痕跡を調査。事件を解決に導くロールプレイ式プログラム。

- 5) 毛皮と頭骨が語るもの

魚干し小屋を破壊し、中の干物を食べてしまったため人間に駆除されてしまったヒグマの頭骨と毛皮をきっかけにして、子供たち自身が人とヒグマの共存について考え、発表しあうプログラム。

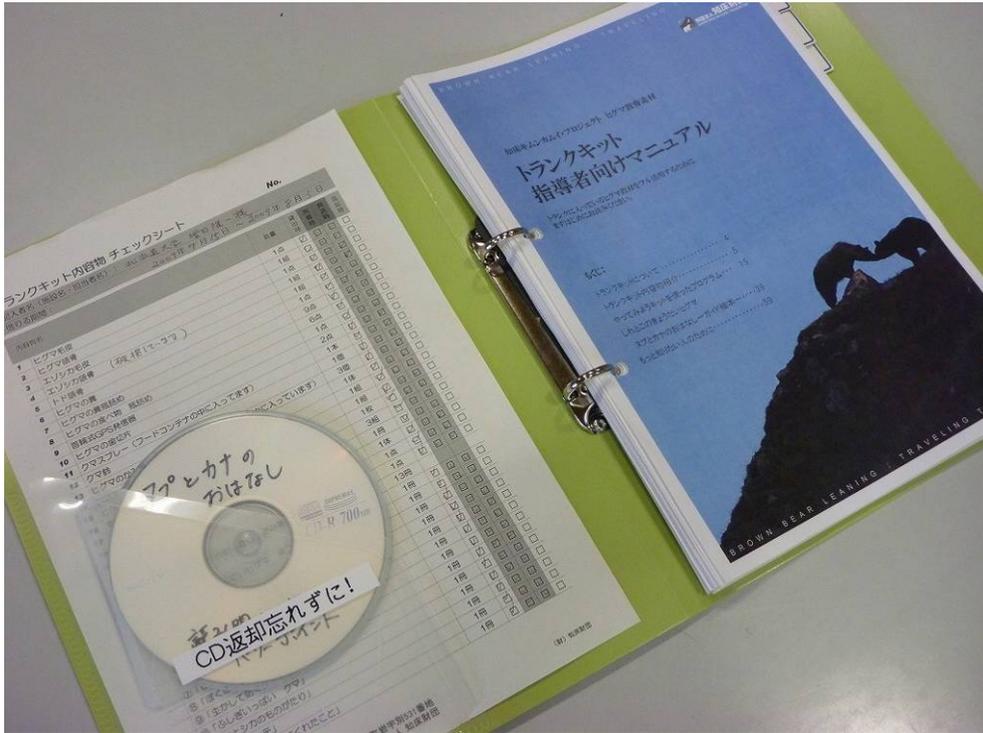


写真 3. 5つのプログラムとヒグマに関する情報を収録した指導者向けマニュアル

フイリカナの
わはなし
どんな話をしているの？

くじょ ヒグマのヌプ、駆除される！



駆除されたヌプ

知床国立公園で
ヒグマのヌプ(ヘー
ダ)が駆除された。
原因は、人を恐れな
くなったヌプがキ
ャンプ場近くに糞
尿を出した。その糞
尿、強い臭いをした
が、人間に危害を与
える可能性が極めて
高くなったため、
やむを得ず駆除さ
れることとなった。
ヌプは人間の出す
ゴミに強い関心を
示していたため、
対策を取ることが
求められている。

もしも
コーナー

クマってどんな生き物なんだろう？

①もしも ニンゲンがゴミを
すてなかったら・・・

③もしも ニンゲンが野生動物に
エサをやったら・・・

②もしも ニンゲンたちがヌプを
追い払わなかったら・・・

④もしも ニンゲンとクマが
同じところにすんでいたら・・・

知床
ヒグマ新聞

記者
月
日
曜日

図 1. プログラム「君はヒグマ新聞の記者だ」で子供たちが作成するヒグマ新聞

c) 貸出システム

教材の内容物紹介や貸出案内を作成し、ホームページ上に設けたヒグマトランクキットに関するページから内容物紹介や貸出案内をダウンロードできるようにした。貸出は無料とし、貸出を受ける団体やグループが送料のみを負担する形とした。貸出は平成 21 年 2 月から開始し、貸出受付はメールやファックスを通じて行った。平成 20 年度末までの貸出実績は北見市児童会館、置戸町児童館、札幌市西区子ども向けヒグマ勉強会の 3 件であった。

なお、貸出業務については、平成 21 年度以降も継続して実施予定である。

The screenshot shows a website page for the 'Higuma Trunk Kit' (ヒグマ貸し出し教材 トランクキット). The page header includes the title and 'Shiretoko Kimunkamui Project'. A navigation menu has tabs for 'トランクキットについて', '内容物紹介', 'プログラム紹介', and '貸出について'. The main content area is titled 'トランクキットについて' and contains text explaining the kit's purpose and a photo of a man with a bear. Below this is a section '指導者の方へ' with detailed text about the kit's goals and usage. On the right side, there is a search bar, a '知床キムカムイプロジェクト' logo, and a section titled '私たちの活動拠点' with a photo of a natural center. At the bottom right, there are links for '旬の自然情報' and '体験プログラム'.

図 2. 知床財団のホームページ上に設置されたヒグマトランクキット紹介ページ

3-2. ヒグマへの理解を深めるための絵本原画の作成

平成 18 年度からストーリーや構成に関する検討を絵本作家あかしのぶこ氏と進め、平成 20 年 9 月に、全 23 枚の絵本原画（アクリル水彩画）を完成させた（図 3～25）。

物語は、知床の豊かな自然の中で暮らしていた兄弟ヒグマの生活がひとつの出来事をきっかけに変化し、2 頭のヒグマが全く違う運命をたどるといふもの。絵本の読者が知床におけるヒグマの暮らし、人とヒグマの問題を理解できるように、前半部は知床におけるヒグマの生活に焦点をあて、後半部は知床で起っている人とヒグマの問題に焦点をあてた。巻末には、物語とは別に解説ページを 4 ページ設け、ヒグマの生態や知床で行われているヒグマとの共存へ向けた取り組みを写真やイラストで紹介した。全ページにふりがなをふり、小学校低学年以下の子供でも読めるよう工夫した。

なお、この絵本は知床財団の独自予算にて印刷製本を行い、2008 年 10 月に出版した。完成した絵本は、道内の公立図書館、道東の自然系施設、斜里・羅臼両町の小中学校や児童館など計 244 箇所へ寄贈を行った（表 4、5）。さらに、原画は保管や展示のため額装を行った。

表3. 絵本概要

書名	しれとこのきょうだいヒグマ ヌプとカナのおはなし
作・絵	あかしのぶこ
発行	財団法人 知床財団
協力	AIRDO北海道国際航空
印刷	山藤三陽印刷
判型	257mm×297mm 52ページ フルカラー
価格	定価：1,500円（税込）
内容	知床で生まれたヒグマの兄妹、ヌプとカナは、お母さんグマと一緒に知床の森や川で自然の恵みを食べながらのんびり暮らしていた。ところがある日、カナが昼寝をしている間に、ヌプはいい匂いにつられ道路に落ちていたお菓子を食べてしまう。人間の食べ物の味を知ってしまったヌプは野生の心を失ってしまう。人間の食べ物を求めて人間に近づいたヌプは、に命を奪われてしまう。



写真4. 完成した絵本「しれとこのきょうだいヒグマ ヌブとカナのおはなし」

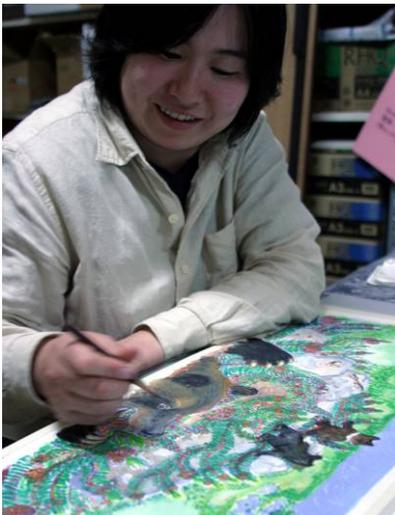


写真5. 絵本原画を作成中のあかしのぶこ氏

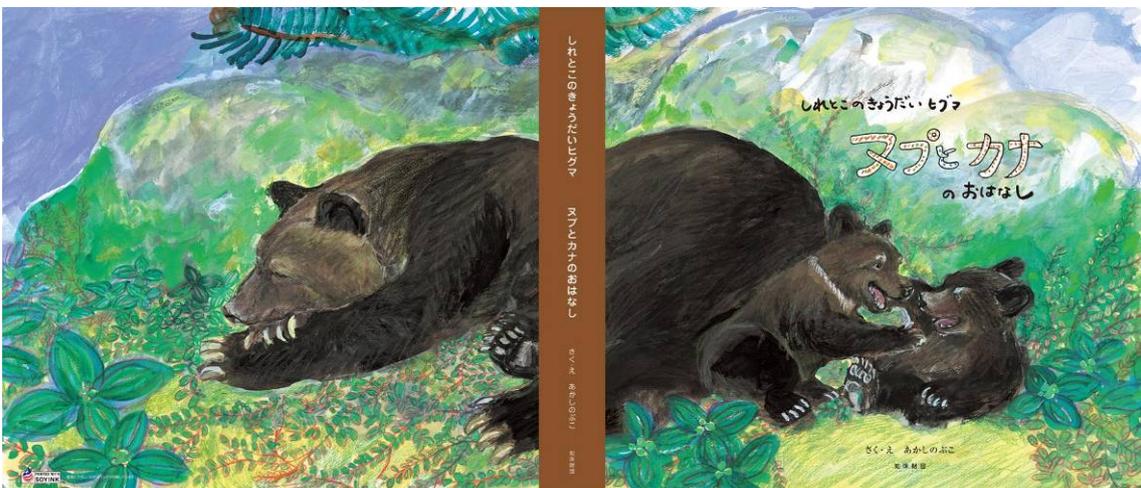


図3. 表紙・裏表紙



図4. 絵本 P1

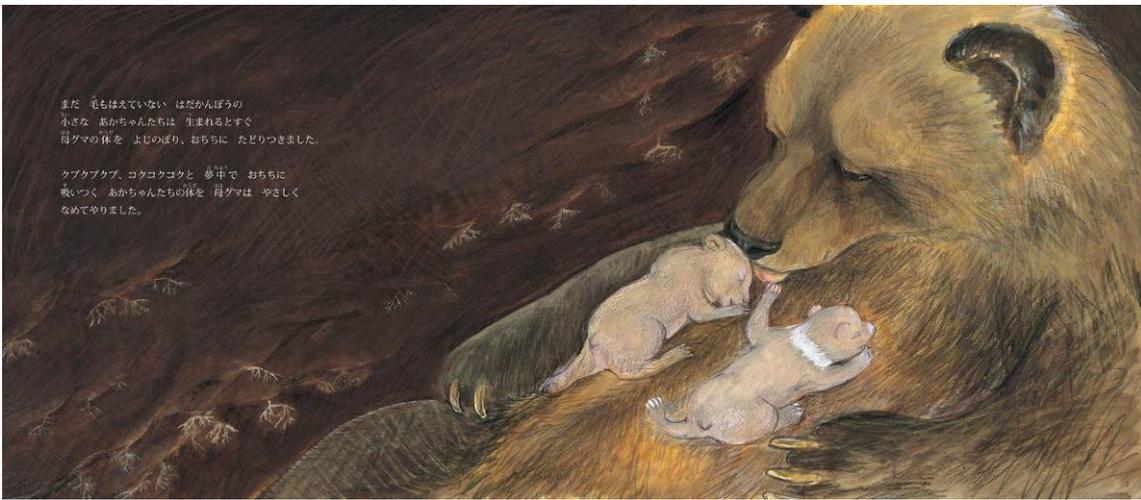


図5. 絵本 P2-3

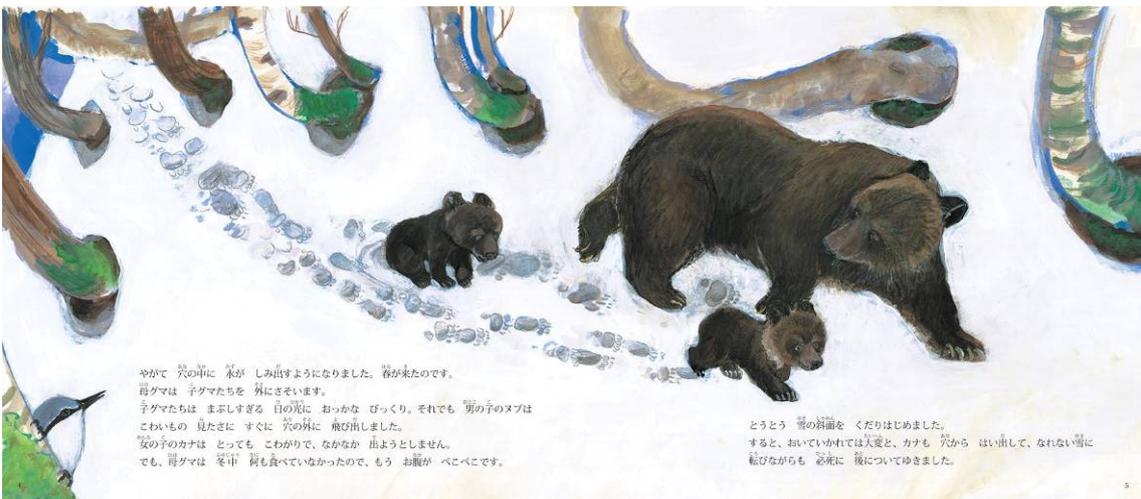


図6. 絵本 P4-5

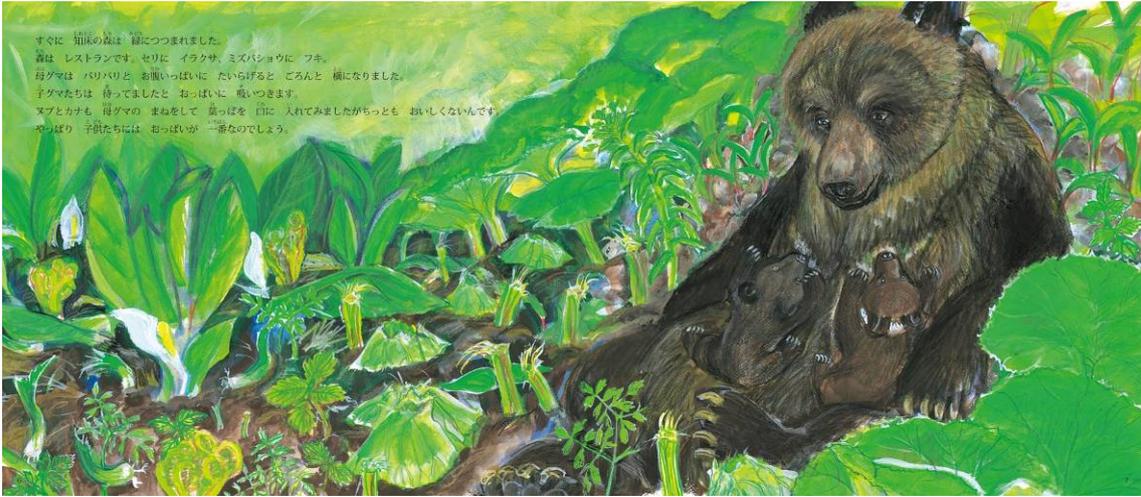


図 7. 絵本 P6-7



図 8. 絵本 P8-9

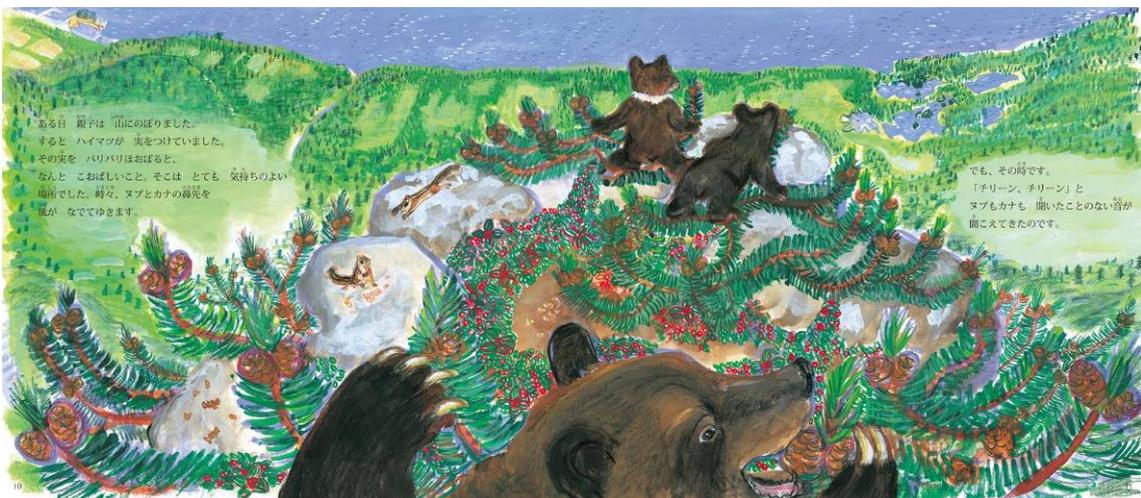


図 9. 絵本 P10-11



図 10. 絵本 P12-13

母グマは 身を低くして ハイマツのかけに かくれました。

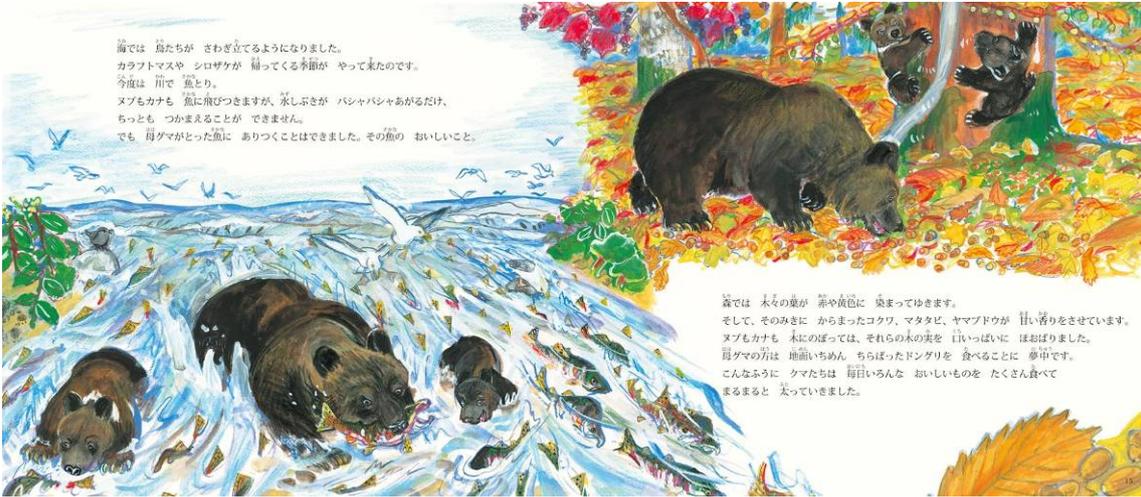
こんなに 大きくて強い母グマが おそれる動物とは いったい どんなものかど スプもカナも おそろおそろ のぞいてみました。

「その動物」とは 色とりどりの皮を着て、2本足で歩く、「ニンゲン」でした。

スプが もっとよく見ようと 音辨びをしたら、母グマに「グウウツ」と おこられてしまいました。



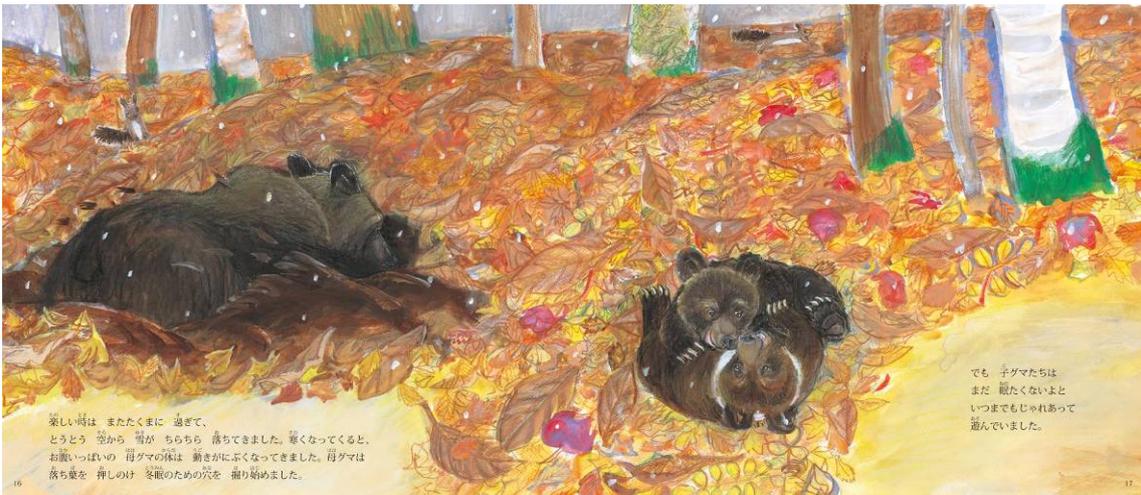
13



前では 魚たちが さわぎ立てるようになりました。カラフトマスや シロザケが 帰ってくる季節が やって来たのです。今度は 川で 魚とり。スプもカナも 魚に飛びつきますが、水しぶきが パシャパシャあがるだけ。ちっとも つかまえることが できません。でも、母グマがとった魚に ありつくことはできました。その魚の おいしいこと。

森では 木々の葉が 赤や黄色に 染まってゆきます。そして、そのみぎに からまったコクワ、マタビ、ヤマブドウが いい香りをさせています。スプもカナも 木にのぼっては、それらの木の実を 11いっばいに ぼおりました。母グマの方は 地面いぢめん。ちらばったドングリを 食べることに 夢中です。こんなふうに クマたちは 毎日いろんな おいしいものを たくさん食べて まるまると 太っていきました。

図 11. 絵本 P14-15



楽しい時は、またたくまに 過ぎて、とうとう 空から 雪が ちらちら 落ちてきました。寒くなってくと、おしいいばいの 母グマの爪は 動きがぶくなってきました。母グマは 落ち葉を 押し分け 冬眠のための穴を 掘り始めました。

でも、子グマたちは まだ 眠たくないよと いつまでもじゃれあって 遊んでいました。

図 12. 絵本 P16-17



図 13. 絵本 P18-19

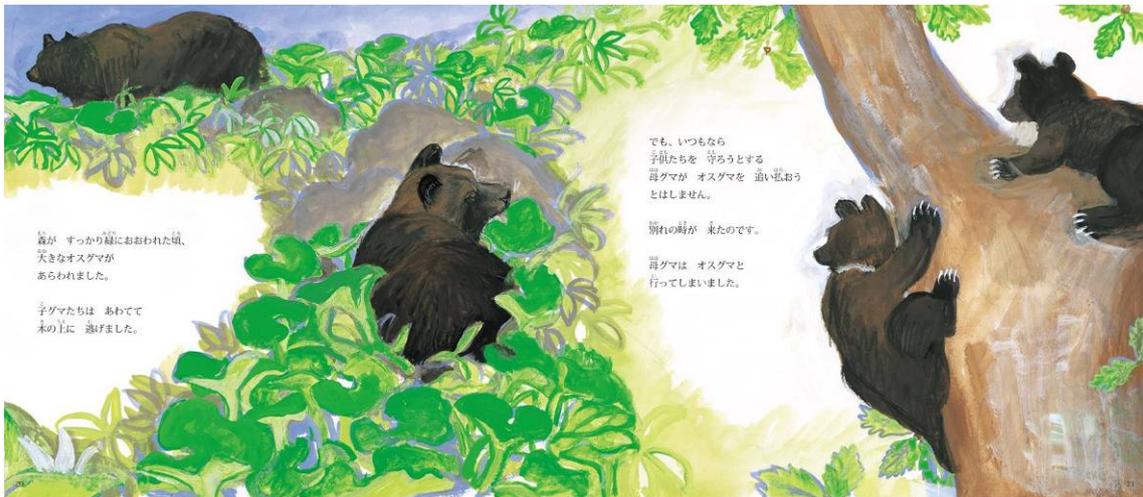


図 14. 絵本 P20-21

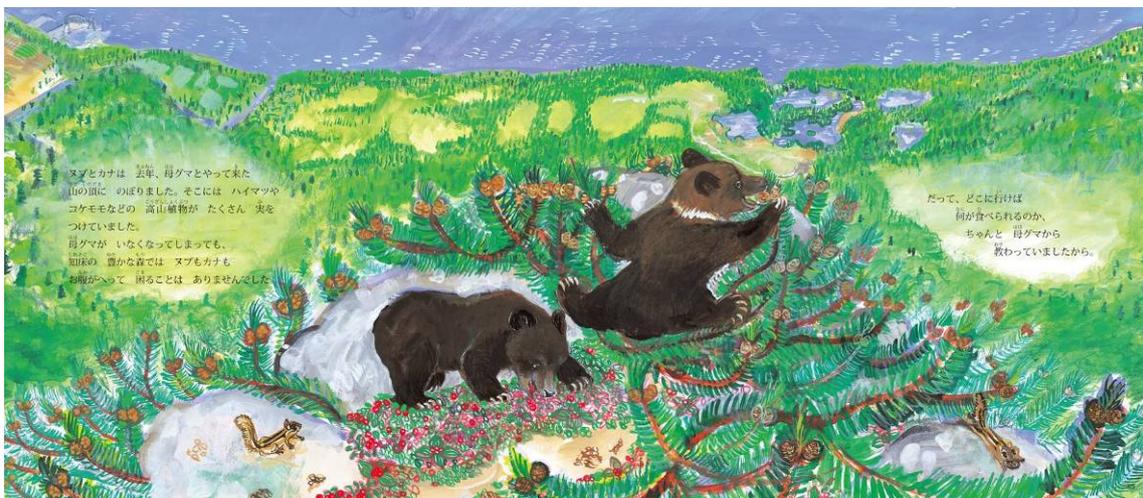


図 15. 絵本 P22-23

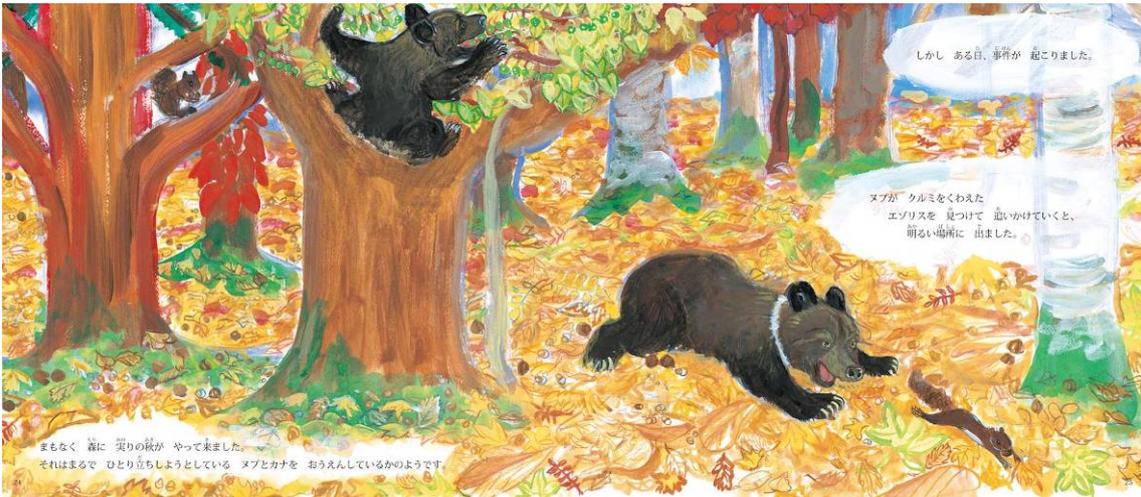


図 16. 絵本 P24-25

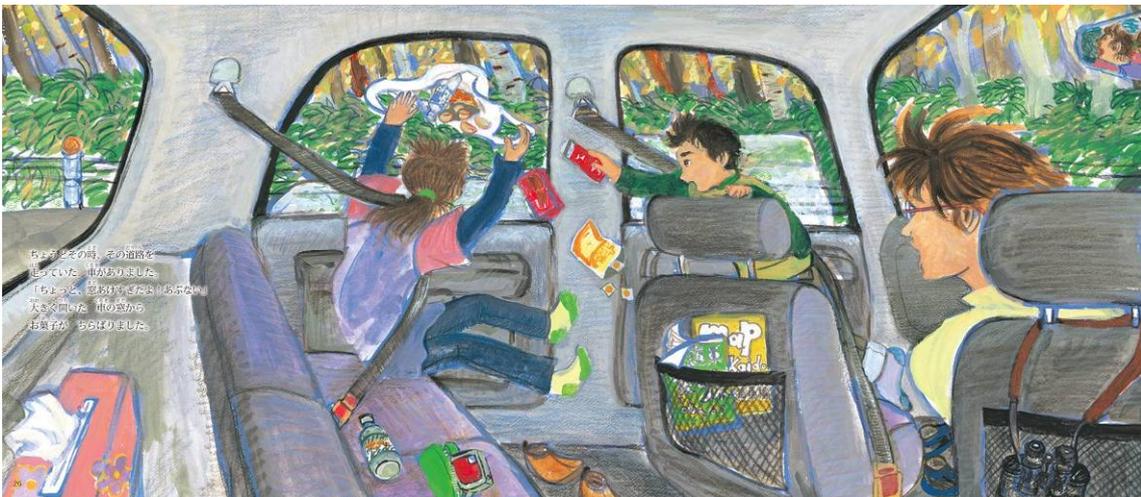


図 17. 絵本 P26-27

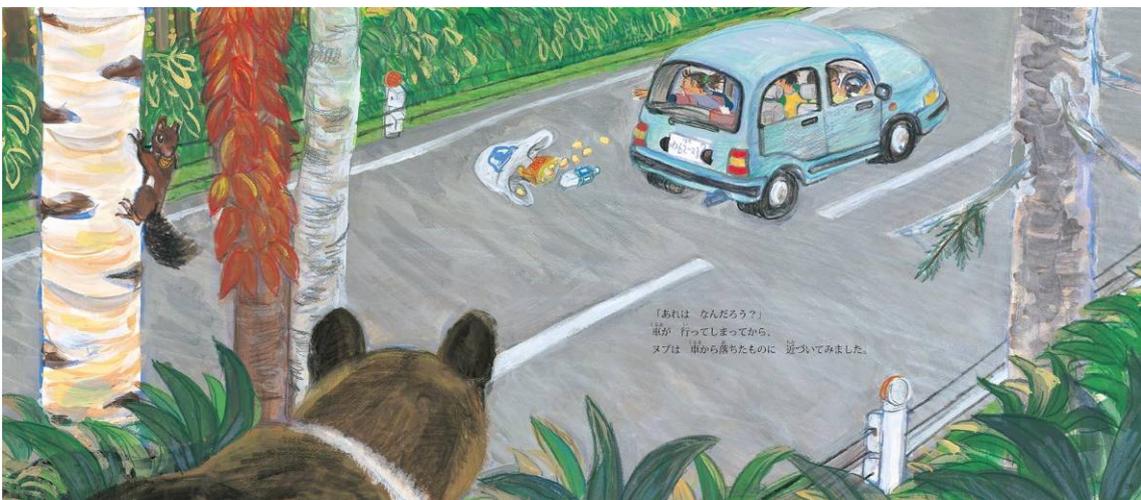


図 18. 絵本 P28-29

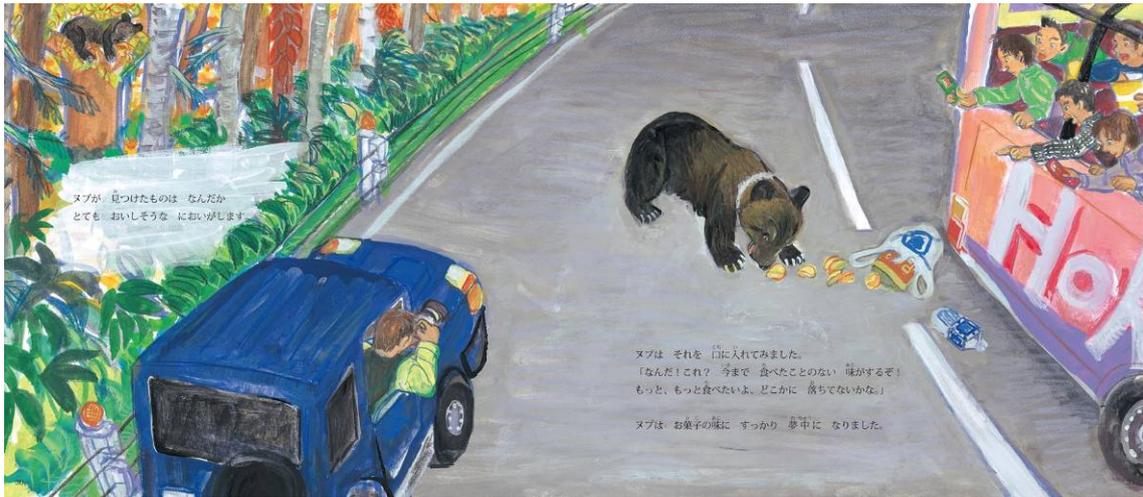


図 19. 絵本 P30-31

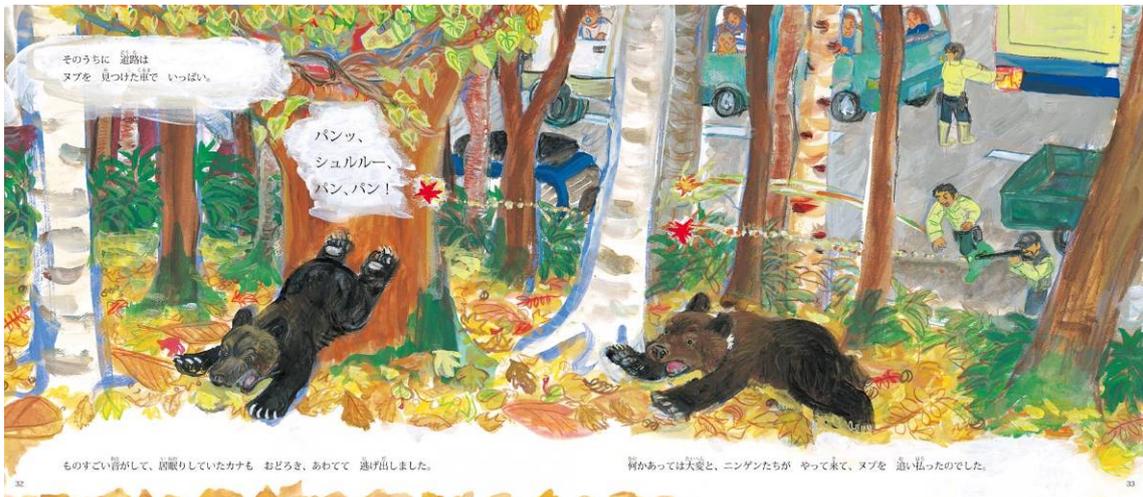


図 20. 絵本 P32-33

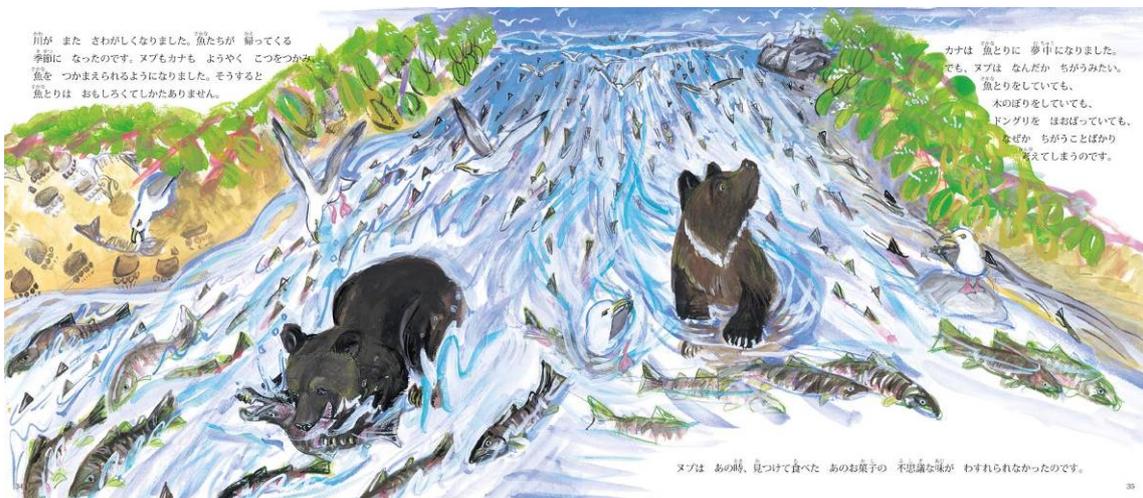


図 21. 絵本 P34-35

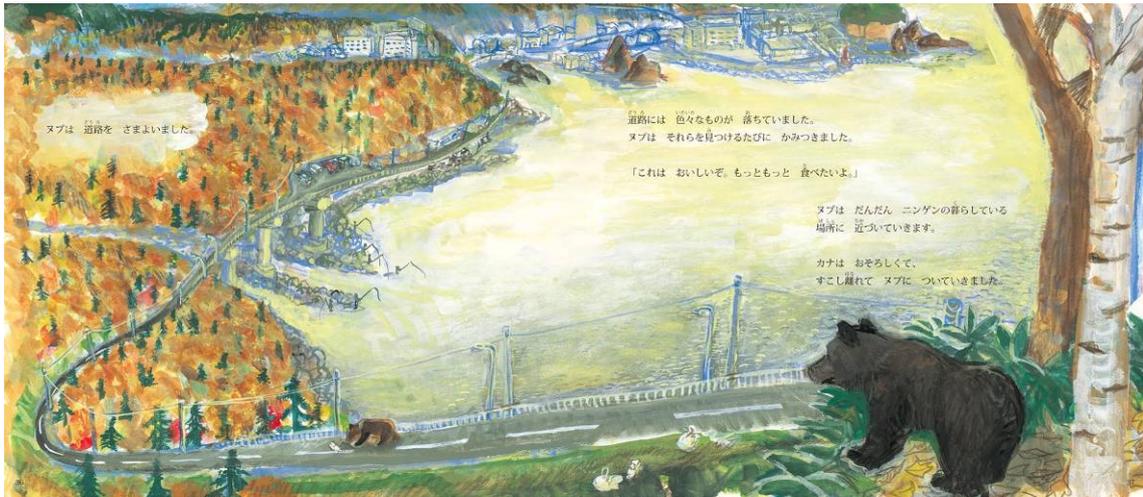


図 22. 絵本 P36-37

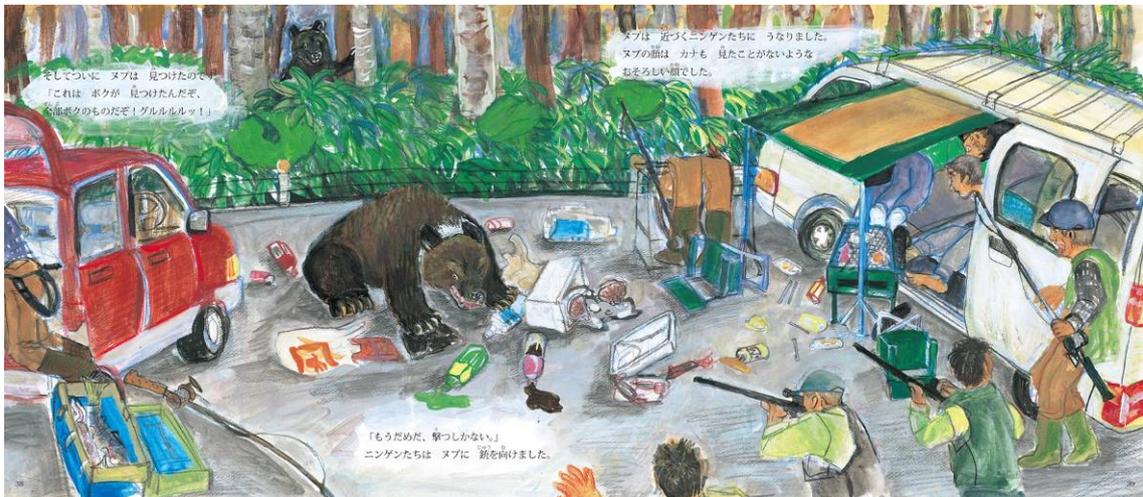


図 23. 絵本 P38-39



図 24. 絵本 P40-41

表 4. 絵本の寄贈先一覧①

◇斜里町・羅臼町内公共施設・宿泊施設等 50 箇所

斜里町立ウトロ小学校	ウトロ保育所
斜里町立斜里小学校	大谷幼稚園
斜里町立朝日小学校	春松幼稚園
斜里町立以久科小学校	羅臼幼稚園
斜里町立川上小学校	斜里町役場環境保全課
斜里町立朱円小学校	羅臼町役場環境管理課
斜里町立大栄小学校	斜里町ウトロ漁村センター
斜里町立三井小学校	知床第一ホテル
斜里町立峰浜小学校	知床グランドホテル
斜里町立斜里中学校	知床プリンスホテル
斜里町立ウトロ中学校	ホテル知床
羅臼町立春松小学校	季風クラブ知床
羅臼町立羅臼小学校	岩尾別ユースホステル
羅臼町立飛仁帯小学校	旅館つくだ荘
羅臼町立植別小中学校	国民宿舎桂田
羅臼町立羅臼中学校	民宿知床ペレケ
羅臼町立春松中学校	羅臼第一ホテル
双葉保育園	斜里町立図書館
はまなす保育園	羅臼町立図書館
中斜里保育所	斜里町立知床博物館
以久科保育所	斜里町ゆめホール
朱円保育所	斜里町児童館
峰浜保育所	羅臼町郷土資料室
大栄保育所	羅臼町子ども発達支援センター
三井保育所	羅臼町公民館

表 5. 絵本の寄贈先一覧②

◇道東自然系施設・北海道内の公立図書館等 194 箇所

霧多布湿原センター	枝幸町立図書館
春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター	恵庭市立図書館
厚岸水鳥観察館	江別市情報図書館
川湯エコミュージアムセンター	遠軽町白滝図書室
鶴居伊藤タンチョウサンクチュアリ	遠軽町図書館
阿寒湖畔エコミュージアムセンター	遠軽町丸瀬布図書室
阿寒国際ソルセンター	遠別町生涯学習センター「マナピィ・21」
野付半島ネイチャーセンター	雄武町図書館
ネイパル厚岸	大空町東藻琴図書館
旭山動物園	大空町女満別図書館
上野動物園	置戸町生涯学習情報センター
茨城県自然博物館	興部町立図書館
ヤマネ工房	長万部町図書館
斜里町役場	音更町図書館
羅臼町役場	帯広市図書館
赤平市図書館	上川町公民館図書室
旭川市神楽図書館	上士幌町図書館
旭川市末広図書館	上湧別町図書館
旭川市中央図書館	北広島市図書館
旭川市東光図書館	北見市立端野図書館
旭川市永山図書館	北見市立中央図書館
朝日町公民館図書室	北見市立常呂図書館
芦別市立図書館	北見市立留辺蘂図書室
厚岸情報館	京極町生涯学習センター湧学館
厚沢部町図書館	清里町図書館
網走市立図書館	釧路市阿寒町公民館図書室
生田原図書館	釧路市音別町ふれあい図書館
池田町立図書館	熊石福祉センター図書室
石狩市民図書館	栗山町図書館
岩内地方文化センター図書室	黒松内町マナヴェール
岩見沢市立図書館	訓子府町図書館
岩見沢市立図書館北村学習交流館	剣淵町公民館図書室
岩見沢市立図書館来夢 21 図書館	札幌市苗穂・本町地区センター図書室
歌志内市立図書館	札幌市曙図書館
浦河町立図書館	札幌市旭山公園通地区センター図書室
浦幌町立図書館	札幌市厚別図書館
江差町図書館	札幌市厚別西地区センター図書室

札幌市厚別南地区センター図書室	清水町図書館
札幌市菊水元町地区センター図書室	斜里町立図書館
札幌市北区民センター図書室	白老町立図書館
札幌市北白石地区センター図書室	市立小樽図書館
札幌市清田図書館	市立釧路図書館
札幌市栄地区センター図書室	市立士別図書館
札幌市生涯学習センターメディアプラザ	市立名寄図書館
札幌市白石区民センター図書室	市立富良野図書館
札幌市白石東地区センター図書室	市立室蘭図書館
札幌市新琴似・新川地区センター図書室	市立留萌図書館
札幌市新琴似図書館	新得町図書館
札幌市新発寒地区センター図書室	新十津川町図書館
札幌市澄川図書館	新ひだか町静内図書館
札幌市太平百合が原地区センター図書室	新ひだか町三石図書館
札幌市拓北・あいの里地区センター図書室	砂川市図書館
札幌市中央区民センター図書室	せたな町大成図書館
札幌市中央図書館	大樹町図書館
札幌市豊平区民センター図書室	滝川市立図書館
札幌市西岡図書館	滝上町図書館
札幌市西区民センター図書室	伊達市立図書館本館
札幌市西野地区センター図書室	秩父別町図書館
札幌市はっさむ地区センター図書室	千歳市立図書館
札幌市東区民センター図書室	町立小清水図書館
札幌市東札幌図書館	町立様似図書館
札幌市東月寒地区センター図書室	月形町図書館
札幌市ふしこ地区センター図書室	津別町中央公民館図書室
札幌市藤野地区センター図書室	弟子屈町図書館
札幌市星置地区センター図書室	当麻町立図書館
札幌市南区民センター図書室	苫小牧市立中央図書館
札幌市もいわ地区センター図書室	豊頃町図書館(える夢館図書館)
札幌市元町図書館	奈井江町図書館
札幌市山の手図書館	中札内村図書館
猿払村農村環境改善センター図書室	中標津町図書館
佐呂間町立図書館	長沼町図書館
鹿追町図書館	新冠町レ・コード館
四季の館まなびランド図書室	ニセコ町学習交流センター図書室
標茶町図書館	沼田町図書館
標津町図書館	根室市図書館
士幌町したしみ図書館	登別市立図書館

函館市旭岡図書室	北竜町図書館
函館市千歳図書室	北海道立図書館
函館市中央図書館	幌加内町生涯学習センターあえる 97 図書室
函館市港図書室	幌延町公民館図書室
函館市美原図書室	本別町図書館
函館市湯川図書室	幕別町図書館本館
浜頓別町立図書館	松前町立図書館
美瑛町図書館	三笠市立図書館
東神楽町図書館	むかわ町立穂別図書館
日高町立日高図書館郷土資料館	芽室町図書館
日高町立門別図書館郷土資料館	森町図書館
比布町立図書館	紋別市立図書館
美唄市立図書館	八雲町立図書館
美深町立図書館	夕張市図書コーナー
美幌町図書館	湧別町図書館
平取町立図書館	由仁町ゆめつく館
広尾町立図書館	余市町図書館
深川市立図書館	利尻町交流促進施設郷土資料室
ふきのとう子ども図書館	稚内市立図書館
別海町図書館	和寒町立図書館
北斗市立図書館	けんぶち絵本の館

3-3. 知床ヒグマの森交流プログラム

ヒグマが暮らす森を歩き、実際にヒグマや彼らを育む自然の価値を実感してもらうことを目的に、小学校3～6年生を対象とした2泊3日の宿泊プログラム「知床ヒグマの森交流プログラム」を平成19年度に開催した。開催概要は以下の通りである。

主 催：財団法人知床財団

協 賛：北海道国際航空株式会社

期 間：平成19年8月8日（水）～8月10日（金）、2泊3日

場 所：知床国立公園周辺（斜里町）

参加者：小学3～6年生 合計16名（斜里町6名・札幌市4名・東京4名・長野2名）

募集方法：インターネットを通じた一般公募

概 要：

ヒグマの暮らす森を歩く「ヒグマの森ガイドウォーク」や船からヒグマを観察する「ヒグマ観察クルージング」、ヒグマの食べ物となる植物を観察する「ヒグマの食べ物を探そう」といった多様なメニューを取り入れ、ヒグマやヒグマが暮らす森について子供たちが現地で直接、自らの経験を通じて知り、学ぶ機会を提供した。



写真7. 知床ヒグマの森交流プログラムの参加者

4. まとめ

普及啓発では、絵本やヒグマトランクキットといった教材作成、子供向け宿泊プログラムの実施を通じ、人とヒグマが安心して暮らせる知床を目指して活動を行った。

絵本は頒布開始からおよそ1年半を経過し増刷をかけるなど、好評を博している。また、ヒグマトランクキットの貸出は、北海道のみならず本州方面からも貸出依頼がきており、「生徒たちが本物のヒグマの頭骨や毛皮をさわって、興味深そうにしていた」、「プログラムで使用する絵本がストーリーだけでなくヒグマの生態や知床の環境などがうまく盛り込まれていて、とても参考になった」といった感謝の声が寄せられている。本トランクキットを参考にした同様のものが札幌でも作成されるなど、別の場所での取り組みにも広がっている。

人とヒグマの軋轢を低減し、ともに安心して暮らせる社会を作るためには、普及啓発が欠かせない。知床財団では、本プロジェクトで作成、実施したものをさらに発展させ、今後も人とヒグマが安心して暮らせる知床を目指した普及啓発を行っていく予定である。

参考資料

1. ヒグマトランクキット・指導者向けマニュアル
2. 知床ヒグマの森交流プログラム報告書